

たより



平成 25 年度 伊勢市公立幼稚園協会研究指定・伊勢市教育委員会研究指定

小俣幼稚園公開保育研究会

「健やかなからだを育てる

～子どもたちが夢中になれる運動遊びを工夫する～」

11 月 8 日(金)の午後、小俣幼稚園にて公開保育研究会が開催されました。公開されたのは、「夢中になれる運動遊び」を通して、子どもたちの「健やかなからだを育てる」という研究内容でした。

年度当初より、高田短期大学子ども学科の柳瀬慶子先生にも園内研修会に参加していただいておりますが、来ていただくたびに、新しい視点で「運動遊び」をとらえることの大切さについて教えていただくことができました。

研究会の持ち方自体についても工夫をしていただきました。従来は公開保育の後に講師の方にご講演いただくという形式でしたが、参観者の方にも意見をいただくべきではないかという考えのもとに、3 歳児・4 歳児・5 歳児の 3 つの分科会を設定し、KJ 法を取り入れて研究協議を行い、その後に柳瀬先生にご講演いただくという形になりました。



「健やかなからだ」とは？

体力とは、「からだ（心・身）の力」とであると柳瀬先生はおっしゃっています。心身を一体のものとしてとらえた「か

身体的な力
物事に対する探究力
他者とかかわる力（行動に移せるかどうか）
協働性や状況に応じた行動力

らだ」として
見ると、体力
の中には 4 つ
の力が含まれ

るのだということです。興味深いのは「他者とかかわる力」「行動力」です。教師が園の子どもたちに設定する「運動遊び」の場面に、身体的な力をつける環境を整えるだけでなく、互いにかかわり合い、自分で判断して行動に移すことを想定する必要があるということなのです。なおかつ、その「運動遊び」には、子どもたちにさぼる余裕のない「夢中になれること」が求められるのです。



「運動遊びの世界」とは？

柳瀬先生は、「運動遊びの過程、子どもの今ここが大事」と話されました。子どもたちの実態に応じて、何をおもしろがるのかを把握し、きちんと「ヒト・モノ」の環境を設定すべきであるということなのです。運動遊びの環境づくりは、「他者（ヒト・モノ）関係づくりのプロ」である教師の大事な仕事だと念押しされました。

小俣幼稚園の公開保育では

すべての組で公開保育を実施していただきました。

【3歳児】「おおかみなんかこわくない」（追う追われる運動遊び）



3組の園児たちが3つの変形サークルの中で「しっぽとり」をしました。お尻に付けたしっぽを取る、取られないようにする元気いっぱいの運動遊びでした。夢中の要素は「追う、追われるスリルを味わう」こと。1ゲームを終えるごとに取ったしっぽの数を数えて競い合うことにも楽しさがありました。園児たちの歓声のとぎれることはありませんでした。

【4歳児】「みんなでノリノリダンス」（リズムに乗る運動遊び）



2組の園児たちが、それぞれの保育室でリズムダンスを楽しみました。リストバンドを付けて園児たちはスイッチオン。定型ダンスに曲調を変えたダンス、ペアダンスに創作ダンス、スキンシップをしながらのクールダウンと工夫いっぱいのまさに園児が夢中になる「ノリノリダンス」でした。踊り終えたときの満足そうな園児の表情が印象的でした。

【5歳児】「あき おばたらんど」（バランスをとる連続した動きの運動遊び・場との対話）

手づくりの看板と独自の遊具の配置で園児たちがテーマパークを作り上げていました。一つの遊びをしながら別の遊びをしたり、途中で遊具の配置を変えて遊びを発展させたりするなど、仲間同士で関わり合いながら楽しめる環境づくりが工夫されていました。休憩している園児は一人もおらず、終了時に協力して片付けを行う姿もたくましかったです。



小俣幼稚園のこれまでの取組は



小俣幼稚園の先生方は、「子どもたちが夢中になれる運動遊びを工夫する」という視点を大切に、何度も何度も園内研修を重ねられました。各学年の保育（運動遊び）の様子をビデオ撮影し、園内研修で上映してKJ法で検証していました。「見守りたい子どもはどんな様子だったのか」、「子どもたちは夢中だったのか」、「子どもたち同士の関わりはあったのか」、「もっと環境を工夫できなかったのか」など、熱心に話し合われました。

その取組を重ねて、先生方は互いに学びを深められ、研究会当日の研究協議では各グループのコーディネーター役を見事に務められました。どのグループも公開保育の様子をもとに、見守りたい園児や周囲の園児の様子について気付いたこと、こうするとさらによくなると考えられること、参観して学んだこと について熱心に討議されていました。



全体会での研究協議の様子

KJ法での研究協議は...

KJ法を取り入れた研究協議に参加するのは初めてという先生もみえましたが、自身の書かれた付箋紙の内容について丁寧に説明されている姿が印象的でした。また、共通した意見をまとめ、見出しをつける作業を続ける中で、互いの考えについて理解し合い、子どもたちを育てていくうえで大切なことについて確認し合っておられました。誠実に話し合われている様子に感銘を受けました。

常識にとらわれずに

研究会の最後に中北園長先生が話されたのは、今回の取組を通してこれまでの体力向上についての考え方をとらえ直すことができたということでした。一般に運動能力調査の結果（数値）を上げることが体力向上であり、子どもたちの健やかなからだを育てることになるのだととらえがちです。しかし、実は、子どもたちが夢中になって遊ぶ中で、自分たちでどんどん遊びを工夫し、仲間と関わり合い、できなかったことができるようになるプロセスこそが大事なのだということです。そのことに気付かれた小俣幼稚園の先生は、実践を重ねるごとに柔軟に対応されていきました。見守りたい子どもや周囲の子どもたちの姿にも明らかな成長が見られました。



公開保育研究会の開催にあたり、小俣幼稚園の先生方には年度当初からたいへんお世話になりました。ともに学び合う貴重な機会をいただきました。ありがとうございました。



みなさんのアンケートから

< 公開保育について >

自身の保育の見直しができ、また、客観的に子どもと教師の関係をみつめられる良い機会になりました。いっしょに遊びたくなるような雰囲気が印象的でした。

各学年の子どもたち一人一人がとても生き生きとした姿が見られました。細やかな環境構成と教師の行き届いた援助と配慮が勉強になりました。からだを動かしたくなる心動かされる公開保育でした。

5歳児の遊戯室へ行くと、「こんにちは！！」と元気いっぱいの子どもたち。その理由がすぐ分かるほど、活動では思い思いに楽しむ生き生きとした姿が見られました。（先生も元気！！子どもたちにとっては大事な環境ですね。）こんなに伸び伸びと遊べる子どもたちは幸せだなと思いました。

3歳児のしっぽとりでは、遊びの中に3歳児に分かりやすい環境設定や工夫がされており、今後の実践の参考になりました。室内の環境構成も秋の自然が感じられ、よかったと思いました。

4歳児の保育室で参観し、はじめから終わりまでダンスの授業に夢中になりました。他の学年の様子を見ることができず残念でした。これが公開保育の宿命という気がします。柳瀬先生の講演で写真では見られてよかったです。

今日的課題に取り組んでおられる実践を見せていただきとてもよかったです。「からだ育てがこころ育て」ということを一生懸命遊びこんでいる子どもたちの姿、発言から実感します。小学校一年生を迎える身としていい勉強をさせていただきました。体育でしていることを振り返りつつ見せていただきました。明日から役立ちそうです。

< 研究発表会について >

協議する場があり、互いに学び合える場となりました。研究の取組や成果がとても分かりやすく勉強になりました。本当に本当にすばらしい研究会でした。

初めてKJ法を用いた交流会に参加しました。なかなかまとまらない時間もありましたが、書いた付箋紙について話を重ねるうちに、つながってきた部分、課題、成果が分かりやすく見えてきました。園でも取り入れてみたいなと思いました。

KJ法を使い、それぞれの意見を整理しながら分かりやすくまとめることができたのでよかったと思います。自分が気付かなかった部分もたくさんあり、勉強になりました。

柳瀬先生のお話はたいへん勉強になりました。目からウロコでした。

運動技能を伸ばすのではなく、体を動かす楽しさ、友だちと一緒に遊ぶ楽しさがたっぷり味わう幼稚園であってほしいと願っています。